**学習指導案（２０分版）　公民① 国家の主権と北方領土問題**

|  |  |
| --- | --- |
| 授業日時 | 令和○年　○月　○日（○曜日）　第○時 |
| 対象学年/クラス/生徒の人数 | 第○学年○組（計○名） |
| 指導者名 | ○○○○ |

|  |  |
| --- | --- |
| 本時のねらい | 国家の主権を確認した上で、国家の主権に関わる北方領土問題を理解させる。 |
| 指導観 | 北方領土問題に興味・関心をもって取り組めるよう、画像やデジタルデータを提示していく。ペアワークを通して、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的な学習となるように留意する。また、生徒同士の協働的な学びを設けることにより、自己の考えや知識を深められるようにする。  導入段階では、国家の主権について確認させる。  展開では、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、国家の主権に関わる領土問題があること、北方領土問題に関して何が問題であるのか、日本の主張と解決策を考え理解させる。  まとめでは、学習を振り返り本時の学びを深める。 |
| 生徒観 | 本時の内容に対して、以下の観点について、生徒の実態を具体的に記述する。  ・学習に必要な習熟度  本時の学習を行うに当たり必要とする知識に対する習熟度  ・学習経験  本時に関連してこれまで取り扱った内容（北方領土問題についての学習経験等）及び取り扱った際の興味・関心の度合い  ・その他、本時の展開に当たり必要な事項  ICTの利用経験  グループワーク等の経験、または意欲や姿勢 |
| 教材観 | 教材は、学校教育現場における北方領土についての学習などの充実を目的として、ICTを活用し、画像やデジタルデータを用いて、生徒が興味・関心、実感をもって、主体的・対話的で深い学びの学習活動となるよう作成している。  本時は、中学校学習指導要領「公民的分野」の「2内容」の「D私たちと国際社会の諸課題」の「（1）世界平和と人類の福祉の増大」に基づいて設定・開発したものである。  本教材は、国家の主権の意味を把握し、北方領土がロシアに不法占拠されているため発生している問題であることを理解した上で、国家間相互の主権の尊重、国際機構の役割、平和主義等の観点から、北方領土問題の解決方法について多面的・多角的に考察させるために適した教材である。 |

本時の指導・授業の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点  （■学習改善につなげる評価） | 使用教材  ICT活用  使用アプリ・ツール例 |
| 1. 導入   <5分> | **『国家の主権と北方領土問題』**   * 国家の主権の意味を把握する | * 授業実施用教材　公民①（以下スライド）を右記に記載のアプリ等で画面に映しながら、「国家が成立するには何が必要だろう」と問いかけ、答えさせながら全体で確認していく。 * 国家は国民、主権、領域の3つの要素から成り立つ。 * 主権をもつ国を主権国家という。主権とは他国に支配されたり干渉されたりせずに、国内の政治や他国との外交を自国で決定する権利である。国家の主権は他の主権国家と互いに平等（主権平等の原則）である。   国際社会は、主権をもつ主権国家を中心に構成されている。   * 領域とは国家の主権が及ぶ範囲である。 | 授業実施用教材 公民①（以下スライド）P1～P5    ワークシートW1    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| 1. 展開   <12分> | **『領土問題』**   * 日本が抱える領土問題 * 本時の学習課題（北方領土問題をどのように解決したらよいか）をつかむ | * 日本が抱える国家の主権に関わる領土問題について、その領土問題はどこの国と抱えているのかを確認する。   ※尖閣諸島は日本固有の領土であり、尖閣諸島をめぐる領土問題は存在しないことを認識させる。  【本時の問い】  北方領土問題をどのように解決したらよいか。   * 態度：日本が抱える領土問題に関心をもち、学習課題の解決に向けて、問いに対する答えを予想したり、解決すべき課題を挙げたりするなど、解決への見通しを立てている。 | スライドP6～P7  カレンダー  自動的に生成された説明  ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| **『北方領土問題』**   * 北方領土問題とは | * 北方領土は今日もなおロシアに不法占拠され、日本の主権が脅かされている。 * 日本はロシアより先に北方四島の存在を知り、17世紀初頭から徐々に統治を確立し、日本人によって開拓され、日本人が住み続けた島々である。 * 1945（昭和20）年 8月の第二次世界大戦終了直後、ソ連は北方四島を占領し、日本人島民を強制退去させた。 * 北方領土は一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土である。 | スライドP8～P11  ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| **『北方領土問題の解決方法』**   * 日本政府の北方領土問題解決のための基本的な考え方   **ペアワーク** | * 「北方領土問題のような国家間で争いごとが起こった時は、どのような解決策があるのか」をとらえさせる。（一例として国際司法裁判所について。※1972（昭和47）年、日本は北方領土問題の付託をソ連に提案したが拒絶された。） * 日本政府は、北方四島の帰属の問題を解決してロシアとの平和条約を締結するとの基本方針に基づいて、ロシア政府との間で粘り強く交渉を継続している。また、北方領土の日本への帰属が確認されることを条件として、実際の返還の時期、態様については柔軟に対応する考えであり、北方領土に現在居住しているロシア人住民の人権、利益及び希望は、北方領土返還後も十分に尊重していくこととしている。 * 北方領土問題の解決のために対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、国家間相互の主権の尊重、国際機構の役割、平和主義等を踏まえて、日本政府の基本的な考え方について考察させる。その際、隣の席同士ペアでワークシートを活用させ、まとめたことを基に対話させ、発表させるなどの工夫が考えられる。 | スライドP12～P14    ワークシートW2    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| 1. まとめ   <3分> | * 本時の学習を振り返る | * 全体で本時の学習を振り返る。 * 知識・技能：学習課題に対し、国家の主権の意味を把握し、北方領土問題とその解決方法について理解している。 | スライドP15～P16  ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |